

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：のと共栄信用金庫

## 事業名称1：地域プレイヤーが生まれ育ち、寄ってたかって支援できるプラットフォームづくり

### あらすじ

2011年（平成23年）6月に七尾市を含む石川県能登半島に広がる「能登の里山里海」が日本で初めて世界農業遺産に認定されたものの、その里山里海を形成するための人の営みにおいて多くの課題が山積している状況である。このような状況を打開し持続可能な地域を実現するために、経済アプローチを起点にローカルSDGsの取組みを地域全体の動きに発展させていく。

### ストーリー

「経済」「社会」「環境」の三側面に対し、SDGsの推進を支援するプログラムを産学官金コンソーシアムにて整備し、市民の地域に対する誇り（シビックプライド）を醸成していくことで、地域をジブンゴトとして捉え地域課題を積極的に解決する人材を育み、地域課題解決プロジェクトが自然多発的に発生する地域を目指す。また今ある地域資源が最大限活用されるだけでなく、地域特性を踏まえた新たな魅力の創出や、地域の人自体が最大の地域資源になることで、地域の活力が最大限発揮される地域を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域のあらゆる主体が参画してつくる「地域未来ビジョン」の実現に向けて、地域課題を皆がジブンゴトとしてとらえ、持続可能な取組みが自然発生的に生まれる地域の未来を目指したい。	・事務局が経営支援機関であることから、持続可能な地域を実現するための各論プロジェクトは、この地で生活する市民や事業者が主体的に取組むものであり、我々はその土壌づくりとアクションを全力サポートする存在というシレンマがある。 ・専属で本事業に取組める参画組織メンバーがほとんどいない状況である。本事業に割ける人材や時間、予算が限られている。参加できる人数ではなく、主体的に参画するマインドを持った仲間の数である。
②課題	地域では複数の団体や組織が社会アプローチとして、持続可能な地域を目指すための取組みを地域に向けて実施してきたが、新たな市民プレイヤーや活動に繋がっていない状況がある。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域で起きている事象や将来に対して無関心層が増加することは、この地域の存続に係る最も大きな地域課題であり、地域に根差す営みも産業も存続できないため。	
④地域資源	世界農業遺産に登録を受けた「能登の里山里海」である。これは能登で生活する人の暮らしそのものを指しており、地域で生きる市民そのものが地域資源であると考えられる。	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	市民・事業者をはじめとしたあらゆる主体を対象として、地域ゴトをジブンゴトとするためのインプット事業を実施する。その上で、事業や活動の推進における支援体制を経済面からスタートさせる。	
⑥担い手（Who）	なおSDGsスイッチ事務局（七尾市、金沢大学、のと共栄信用金庫、七尾商工会議所、鹿北商工会、日本政策金融公庫、中小企業基盤整備機構、東京海上日動火災保険、七尾商工会議所）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	本事業では地域課題であり地域資源である「ヒト」の循環を高めることを目的に事業を展開し、人が動かす企業や組織につく「モノ・カネ・コト」が、「ヒト」の動きとともに循環するシステムを構築したい。	・参画組織の本業にも直結する仕組みづくりを整備し、運営側も本業（ジブンゴト）としての関与を創出する。
⑧事業で生じる成果	主体性を持った市民プレイヤーが自然発生的に生まれ、地域課題に向けて率先して取組みたくなる土壌に七尾市をすることで、街全体がひとつの大きなSDGs推進装置となる。	